

彦根市埋蔵文化財調査報告第20集

福 満 遺 跡 第 7 次 調 査

—市立城南小学校増築工事に伴う—

平成 3 年 3 月

彦根市教育委員会

序

21世紀まであと10年たらずには迫り、コンピューター等ハイテク技術の急進展に伴いニュー・メディアに代表される情報ネットワークの展開は、21世紀の先取りとも言えるものがあります。情報化社会は、全国的に同質のまちを作りつつあり、地方の特色が薄れつつあるのが現状であります。このことは、子供達の「ふるさと」意識の希薄化に端的に表われています。

文化財は、人々の生活と時間と自然の中で作られてきた歴史のエッセンスとして固有の価値を持つものであります、「ふるさと」を見直し新たな意味を見付ける鏡としての可能性を持つものであります。この様な意味で「ふるさと」情報の体系化と発信は、私達の大きな責務であります、本書がその一助となれば幸せです。

最後になりましたが、調査にご協力いただきました関係各位に厚くお礼を申し上げます。

平成3年

教育長 和田 豊治

例　　言

1. 本書は、平成2年度に城南小学校の増築工事に伴ない実施した福満遺跡の発掘調査報告書である。
2. 遺跡は、滋賀県彦根市西今町380番地である。
3. 調査は、彦根市長の依頼に基づき彦根市教育委員会が実施した。
4. 調査体制は次のとおりである。

彦根市教育委員会　社会教育課長　高橋安太
同　課長補佐　小寺　廣
同課文化財係長　日夏秀喜
同課文化財係技師　本田修平

5. 現地の調査および整理作業には次の方々が参加した。

調査作業員	大堤須美子	北川正吉	鈴木千代
	出口加寿夫	西村昭三	原　弥助
	疋田千鶴子	古川　久	松林愛子
整理作業員	乾　範子	中嶋容子	西村幸子

以上敬称を略す。

記して感謝したい。

7. 調査の出土遺物等資料は、本市教育委員会が保管している。

なお、資料中遺構図等で使用している北は、磁北である。

目　　次

1.はじめに	3
2.調査結果	4
3.まとめ	6
出土遺物観察表	7
図版1~14	16

1.はじめに

福満遺跡の所在する西今町周辺は、南彦根駅の開設や道路整備等の進展、また、宅地開発の進行による居住人口の増加が著しい地域である。このため、市立城南小学校の増築が計画されたものである。

城南小学校は、現在までの調査で福満遺跡上に位置していることが明らかであり、これまでに増改築時には調査を実施しており、今回も工事以前に調査を行うことで計画をした。

調査に至る経過は、平成2年5月15日付彦教委社第459号で発掘通知および調査依頼の提出が彦根市長よりあり、市教育委員会では教育長名で発掘通知の進達ならびに発掘調査通知を平成2年5月22日付彦教委社第666号で進達、彦教委社第664号で調査通知を県教育委員会教育長あてに提出した。

現地の調査は、先ず重機で盛り土等を取り除きトレントレンチ設定を行なったが、これと同時に調査地が小学校の敷地内であるため安全対策として金網を張った柵で現場を囲んだ。その後現地調査を実施したが、調査期間は平成2年6月4日から同月の30日までを要した。遺物整理等の作業は、平成3年3月31日まで実施した。

福満遺跡をその地理的な条件から見れば、犬上川がその死命を制していた。すなわち、遺跡は犬上川後背湿地の微高地上に立地しており、現在までの調査結果から見れば大きくは2回の時間的な断絶があり、福満遺跡が立地する微高地が地形的に安定するのは、沖積地化がある程度進んだ古墳時代以降であった。この断絶の時期は、縄文時代後期後半から晩期前半と弥生時代の2時期である。

次に遺物の出土した縄文時代後期前半と晩期後半の遺跡周辺の自然環境を推定すれば、後期の遺物の中には植物遺体は確認できなかったが、晩期の中に「板」「栗」「胡桃」等の実が出土しており深い照葉樹林に包まれていたと思われる。また、後期、晩期ともにその遺物の出土状況はシルト層・砂層等が互層になっている中に遺物が入っているとともに、その上に包含層、遺構の土が落ち込んだ状態であった。このことは、河川もしくは低湿地に堆積した2次的な包含層であることをものがたっている。以上の様な過程で形成された沖積地の上に弥生時代後期以降の遺跡がのっていると考えられる。本遺跡周辺の自然環境としては、深い照葉樹林の広がる中に犬上川の河道および後背湿地が形成され、縄文時代弥生時代を通して沖積地化が進行していたことが復元できる。ただし、この沖積地化はこ

の時点で完了したわけではなく、ある程度沖積地化が進み、その微高地に大規模な集落が形成された古墳時代から奈良時代にかけても徐々に進んでいたことが考えられ、犬上川の沖積作用の激しさがうかがえる。

2. 調査結果

福満遺跡の今回の発掘調査は、前記した様に市立城南小学校の児童数の増加に伴った増築工事に先立ち実施したもので、建物面積は鉄筋コンクリート造り二階建の床面積 357 m² の校舎である。この地点は、以前木造校舎のあった時に便所があった所であるとのことで、擾乱を受けていることが予想された。トレントは、安全面との関係で現在の校舎と繋ぐ廊下部分を除いて設定し、面積は約 170 m² である。また、この場所は小学校正面入口の北側であることや北隣りの城南保育園の園児が通るため、はじめに記した様に安全面を配慮して柵を作つて外部から入れない様にした。

調査は、重機で包含層の上面まで掘り下げその後人力による手掘りとしたが、校舎であることから盛り土が約 90cm、その下に耕作土層が 30cm あり、平均で 120 cm 程掘り下げることが必要で、その土量はかなりのものであった。また、前述した様に、以前の校舎による擾乱が心配されたが、松の丸太杭やぐり石の詰まった長径 1m 前後の楕円の穴がトレント北西端で 3ヶ所あった以外は擾乱を受けていなかった。ただし、トレント北と南両側の断面では建物基礎が包含層の上面まで入っていた。また、遺構面での基礎の松杭は杭の残存したものは 6 本であるが、2m × 2.8m ピッチで 16ヶ所検出できた。以上のことより、今回のトレントは以前の木造校舎と丁度重なるものであることが確認できた。

遺構面の確認できた地山は、褐黄色粘質土層が主であるが、トレント中央部では褐黄色砂質土層になる。包含層は暗灰褐色粘質土層が 30cm 程あり、ほぼ 2 回に分けて掘り下げた。遺構は土師器、須恵器片が主であり、量的にはあまり包含していないかった。時代的には、古墳時代の前半から後半にかけてのものが大半であったが、数片ではあるが灰釉陶器片等が出土しており平安時代までの遺物を含んでいた。また、1 点ではあるが縄文時代の遺物と考えられる叩石が出土している。今回の調査地は、以前に発掘調査を実施し縄文時代後期の遺物が多量に出土した県住宅供給公社の宅地造成地の南隣にあたる地点であり、縄文時代の遺物の出土が予想されたが、包含層からのこの時代の遺物の出土は、この 1 点だけであった。

〈SD - 1〉

溝(SD - 1)は、トレンチ北東壁からほぼ南を向いて直線的に走り、湿地状の落ち込み(SX - 1)にかかる所からゆるやかに湾曲して東南方向を向く。このSD - 1は、幅40cmで深さ20cmを計り、SX - 1を切り込んで形成したものであるが、ピットには切られている。溝内は、黒灰色粘質土が入る一層だけであり、遺物は土師器の小片が数点入っているだけで具体的にその時代を表わす資料は出土しなかった。

〈SB - 1〉

トレンチ南西側で検出した主軸N - 24°Eの掘立柱建物で、その規模は現状で2間×1間であるが、柱穴の状態から見れば2間×3間の建物跡と考えるのが妥当であろう。また柱間は2.5mを計り、柱穴は径40cm前後で円形のものが主である。

その他、ピットを多数確認しており、等間隔で直線を作る所は数ヶ所あるが、他のピットが直交して建物跡とするには若干無理があるため、今回の調査地点での建物跡は上記のSB - 1だけと考えている。

〈SX - 1〉

SX - 1は、遺構面を精査した時点でトレンチ南端に遺物を包含した茶褐色粘質土の入った落ち込みを確認した。当初、沼もしくは湿地状の遺構と考え、茶褐色粘質土層を掘り下したが、この層に含まれた遺物は他の所に較べると比較的多く、また廃棄された土器がその場で割れた様な出土状況を示すものもあった。出土遺物は、古墳時代前期と考えられる土師器が出土している。この包含層は、40~50cmの厚さがあったが、この層を取り去っても地山の土は確認できず、土層は砂質から砂層に変った。最終的には、水の湧いて来る砂利層まで掘り込んだが、SX - 1内埋土第3層の青灰色シルト層から青灰色砂層に至る層で3点ほどの縄文時代晩期後半の土器片が出土した。また、SX - 1の肩を出すため掘り込んだところ、遺構面である褐黄色粘質土層の下に縄文時代晩期の遺物の包含層である青灰色シルト層および青灰色砂層が入り込むことを確認した。このことから当地の地形を考えれば、低湿地もしくは河床状の所を大上川の沖積作用によって、沖積地が形成され始めたのが縄文時代晩期のことである。この低湿地の大半が沖積地化したのは、古墳時代前期のことである。この時期に湿地もしくは沼状に残されたのがSX - 1にあたる所で、この時点でも古墳時代前期の遺物を包含しながら沖積化が進行したことが考えられる。以上の様なプロセスを経て沖積地として形成され、当遺跡の過去の調査例から見れば縄文時代後期から沖積作用が加速的に進行したと思われる。このため、沖積地がある程度進んだ古墳時代前期以前の人々の生活場所は、その時代に微高地化した所を選んで占地していたが、極め

て不安定な地形であったことが考えられる。

3. まとめ

福満遺跡の今回の調査は、調査範囲が極めて限られたものであり遺跡全体の性格を把握するまでには至らなかったが、以前の調査で確認した縄文時代後期前半および縄文時代晩期後半の包含層は、2次的な包含層と考えていたが、今回のSX-1の調査でその性格がより明確になった。すなわち、住居等の生活面は当時としては微高地であったろう沖積地化の進んだ所が選ばれていたと考えられるが、沖積地化の進行と共に遺跡ごと削平される様な激しい沖積作用があり、低湿地に2次的な包含層として残された。このため、場所、時間的な連続性はこの時代には認められない。この地が沖積地として地形的に安定化するのは、沖積作用がある程度進んだ古墳時代前期以降であるが、この時代も一部埋め残された地点では沖積地化が進んでいた。以上の様な自然地理的な特徴を福満遺跡は示していることが、今回の調査で明確になった。

溝、ピット等の遺構は、その埋土中に時期を明確に表わす資料は出土しなかったが、溝とSX-1との切り合い関係やSX-1の近くではピットがあまり検出できなかったことを考えあわせれば、SX-1の堆積が終った古墳時代以降のものであることが推測できる。

今後、福満遺跡の調査が進めば、より豊かな歴史が私達の目の前に明らかになるだろう。

福満遺跡第7次出土遺物観察表

番号	種類・型形	法 量 (cm)	形 態	調 査	地 質	地 質	備 考
1	土師器 壺	口径 14.4	<ul style="list-style-type: none"> ○よく締った頸部より、口縁部は「ラッパ」状に開く。 ○口縁部は、焼部外面を面取りして断面三角にしておさめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○頸部・口縁部は、内外面ともに横ナデ調整。 	胎土：2mm前後の砂粒を含む 色調：淡褐色 焼成：硬	胎土：2mm前後の砂粒を含む 色調：淡褐色 焼成：硬	包含層
2	"	" 16.0	<ul style="list-style-type: none"> ○口縁部は「ラッパ」状に開く。 ○口縁部は、焼く面取りしてやや垂下ぐみの端飾を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○頸部外面上半部は、ハケ調整の上から横ナデ調整をほどこす。 ○口縁部から端部は、横ナデ調整であるが、内面は器表剥脱のため不明。 ○口縁部外面下部に胎土を盛り付けて、口縁部を作る。 	胎土：1mm以下の砂粒を含む 色調：赤褐色 焼成：やや軟	胎土：1mm以下の砂粒を含む 色調：赤褐色 焼成：硬	"
3	"	従元径 22.8	○口縁部は外傾して開く。 ○口縁部は、外面を強く面取りして上方をつまみ出しきみに作り、下方に垂下させておさめる。	○内外面ともに器表剥脱のため不明。	胎土：1mm以下の砂粒を含む 色調：赤褐色 焼成：やや軟	胎土：1mm以下の砂粒を含む 色調：赤褐色 焼成：硬	"
4	"	口径 11.1	○口縁部は「ラッパ」状に開く。 ○口縁部は、深いナデにより上方に引き出すと共に下方に垂下させ、断面菱形に作る。	○口縁部および端部は、内外面ともに横ナデ調整。	胎土：1mm前後の砂粒を含む 色調：明赤褐色 焼成：硬	胎土：1mm以下の砂粒を含む 色調：明赤褐色 焼成：硬	"
5	"	" 19.0	○口縁部は強く外傾して開き、端部を垂下させる。 ○口縁部外面に凹溝を四条ほどこし、溝状浮文をかざる。	○口縁部外面は、ハケ調整と思われる。端部および口縁部外面は、横ナデ調整。	胎土：1mm以下の砂粒を含む 色調：赤褐色 焼成：やや軟	胎土：1mm以下の砂粒を含む 色調：赤褐色 焼成：硬	"
6	土師器 壺	" 13.6	○体部は、最大腹径が上位部に来ると思わ	○体部外面はハケ調整。	胎土：1mm前後の砂粒を含む 色調：赤褐色 焼成：硬	胎土：1mm前後の砂粒を含む 色調：赤褐色 焼成：硬	"

番号	種類・構形	法 量 (cm)	形 態	調 整	胎土・色調・焼成	備考
	頭		○ 頭部は、やや若く、口輪部はいかゆる受け口口輪をなす。 ○ 帽部は、強い様ナデで面取りする。	○ 頭部・口輪部内外面および体部内面は横ナデ調整。	砂粒を含む 色調：乳白色 焼成：やや軟	包含層
7	土師器 底部	底部径 5.6	○ 底部は平底で、体部は強く外傾して立ち上がる。	○ 底部は内外面とともに器表剥脱のため不明である。 ○ 体部は、外面唇表剥脱のため不明であるが、内面はハケ調整。	胎土：2 mm前後の 砂粒を含む 色調：淡青褐色 焼成：軟	"
8	"	" 6.6	○ 脊部は凹み底をなし、体部は強く外傾して立ち上がる。	○ 底部は外面ナデ調整。 ○ 底部内外面および体部内外面とともに、ハケ調整後に接ナデ調整。	胎土：粗良 砂粒を若干含む 色調：淡青色 焼成：硬	"
9	"	" 5.8	"	○ 底部および体部ともに器表剥脱のため不明。	胎土：1 mm前後の 砂粒を若干含む 色調：淡褐色 焼成：硬	"
10	"	復元径 7.0	○ 底部は外面に張り付けており、凹み底をなす。 ○ 体部は外傾して内巻きみに立ち上がる。	○ 底部外面はナデ調整。 ○ 体部内外面および底部内面はハケ調整後接ナデ調整。	胎土：1 mm前後の 砂粒を若干含む 色調：淡白褐色 焼成：硬	"
11	土師器 脚付底部	底部径 5.5	○ 底部は脚が付く。 ○ 体部は、強く外傾して立ち上がる。	○ 器表剥脱のため不明。	胎土：3 mm以下の 砂粒を含む 色調：淡乳褐色 焼成：やや軟	"
12	土師器 器台脚部		○ 脚部は「ラバ」状に聞く。	○ 器表剥脱のため不明。	胎土：1 mm前後の 砂粒を若干含む 色調：明るい褐色 焼成：やや硬	"

番号	種類・器形	法量 (cm)	形態	調査	地土・色調・焼成	備考
13	土瓶器 高身壺部		○ 腹部は「ラッパ」状に開き、3穴を有す。 と思われる。	○ 环底部は「へそ」状に地土で埋め作る。 ○ 器表剥落のため不明。	地土：1mm以下の 砂粒を極少含む 色調：淡赤褐色 焼成：やや硬	包含層
14	"	"		○ 腹部内面にしぶり痕を残し、外面はナデ 剥落。 ○ 並ぶ外表面はナデ剥落。	地土：精良 色調：淡褐色 焼成：硬	"
15	"		○ 腹部は、脚柱部を作り「ラッパ」状に開 く。	○ 腹部は内面にしぶり痕を残し、内外面は ナデ剥落。	地土：1mm以下の 砂粒を若干含む 色調：乳白色 焼成：軟	"
16	須恵器 环	口径 22.9 器高 5.2	○ 天井部は「ドーム」状を成す。 ○ 口縁部は外透しきみに開く。	○ 天井部外面上半部はへら切り不規整。 ○ 天井部内面および内部はクロロナ ナデ剥落。	地土：1mm以下の 砂粒を含む 色調：淡灰色 焼成：硬	"
17	土瓶器	口径 10.8	○ 口縁部は、外側しながら「ラッパ」状に 開く。 ○ 端部は、面取りして上方と下方に引き出 して垂下口縁みに作る。	○ 口縁部は、内外面横ナデ剥落。 ○ 口縁端部および内面は丹影かと思われる。	地土：2mm前後の 砂粒を極少含む 色調：乳赤色 焼成：硬	SX-1 内 (赤褐色 粘質土層)
18	"	"	○ 口縁部は、外側しながら「ラッパ」状に 開く。 ○ 端部は、面取りして上方に開くつまみ出 し、外面に弱い凹線を入れる。	○ 口縁部は、内外面ともに横ナデ剥落。	地土：1mm前後の 砂粒を含む 色調：淡褐色 焼成：硬	"
19	"	14.7	○ 縁部はよく開り、口縁部は外傾して開く。 ○ 縁部は、面取りして上方と下方に弱くつ まみ出る。	○ 縁部から口縁部下半部外面はハケ剥離と 思われる。	地土：2mm前後の 砂粒を若干含む	"

番号	機種・器形	法 量 (cm)	形 態	調 整	治土・色調・焼成	備 考
			まみ出しておさめる。	○ 口縁部上半部外面から端部内面は横ナデ調整で、他は留表剥脱のため不明。	色調：淡赤褐色 焼成：やや軟	
20	土 試 器 口径	12.7	○ 端部はよく繪り、口縁部は外傾して開く。 ○ 端部外面下方に粘土を張り付け断面「四辺形」におさめる。	○ 窓部および口縁部は、内外面ともに横ナデ調整。	治土：2mm前後の砂粒を含む 色調：淡褐色 焼成：やや軟	SX-1内 (朱褐色 粘質土質)
21	土 試 器 口径	14.7	○ 窓部はよく繪り、口縁部は「ラババ」状に開く。 ○ 端部はよくおさめるが、下方につまみ出しがみにする。	○ 窓部および口縁部は、内外面ともに横ナデ調整。	治土：1mm以下の砂粒を極少量含む 色調：淡褐色 焼成：硬	#
22	土 試 器 口径	18.8	○ 窓部はよく繪り、口縁部は強く屈曲しながら外傾して開く。 ○ 端部は、面取りし、下方に弱くつまみ出しがみにする。	○ 口縁部外面はハケ調整で、内面はハケ調 整後端ナデ調整。 ○ 端部は横ナデ調整。	治土：精良 色調：灰褐色 焼成：硬	#
23	土 試 器 口径	23.0	○ 口縁部は、強く外傾して開き、端部を垂下させておさめる。 ○ 口縁部上面は4条の凹槽を入れ、端部上面を削む。	○ 口縁部は、内外面ともに横ナデ調整。	治土：2mm前後の砂粒を極少量含む 色調：明赤褐色 焼成：やや軟	#
24	土 試 器 口径	15.4	○ 口縁部は、強く外傾しながら開くいわゆる「く」字口縁。 ○ 端部は、面取りして平らにおさめる。	○ 口縁部は、内外面ハケ調整。 ○ 端部は、横ナデ調整。	治土：精良 色調：淡赤褐色 焼成：硬	#
25	土 試 器 口径	20.8	○ 口縁部は、屈曲して立ち上がり、端部を面取りするいわゆる「受け口」状口縁。	○ 口縁部は、内外面ともに横ナデ調整。	治土：1mm以下の砂粒を若干含む 色調：淡白褐色 焼成：やや軟	#

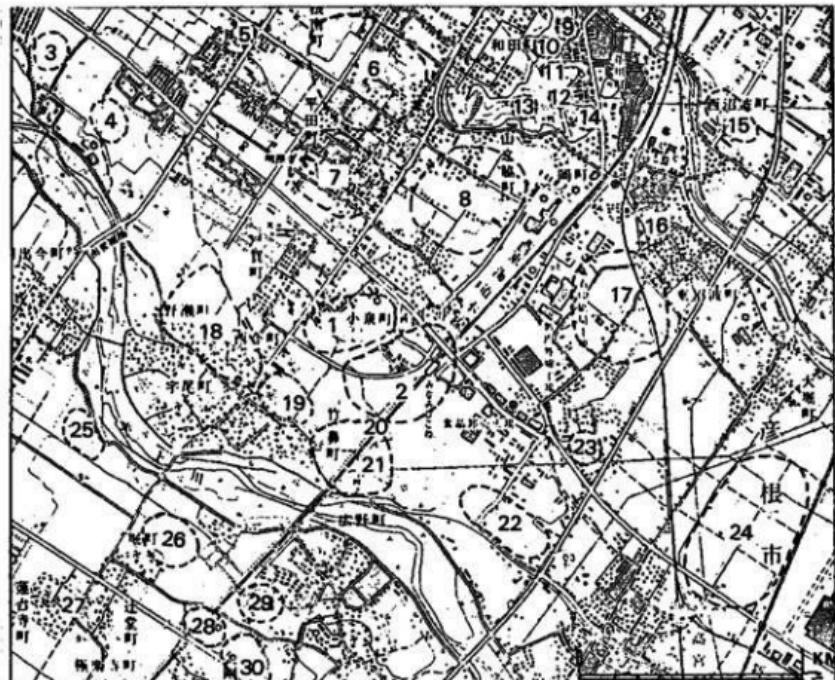
番号	種類・器形	法 量 (cm)	形 態	調 査	鑿 壁	土・色調・焼成	備 考
26	土師器 甕	口径 15.5	○ 頸部はやや繋り、口縁部は屈曲して立ち上がり、端部を丸くおさめるいわゆる「受け口」状口縁。	○ 口縁部は、内外面ともに焼成ナメ調整。	○	胎土：精良 色調：明赤褐色 焼成：硬	SX-1 内 (赤褐色) 粘質土質
27	〃	〃 21.7	○ あまり繋らない頸部より、口縁部は屈曲して立ち上がり端部を平らにおさめるいわゆる「受け口」状口縁。	○	〃	胎土：精良 色調：明赤褐色 焼成：軟	〃
28	〃	〃 18.2	○ 口縁部は弱く屈曲しながら開き、端部を丸くおさめるいわゆる「受け口」状口縁。	○	〃	胎土：2 mm 前後の 砂粒を極少量含 む 色調：赤褐色 焼成：やや硬	〃
29	〃	〃 19.7	○ あまり繋らない頸部より、口縁部は強く屈曲して立ち上がり端部をややつまみ出し ぎみに作るいわゆる「受け口」状口縁。	○	〃	胎土：1 mm 以下の 砂粒を若干含む 色調：明赤褐色 焼成：軟	〃
30	〃	〃 15.7	○ あまり繋らない頸部より、口縁部は強く屈曲して立ち上がり端部を強く面取りして おさめるいわゆる「受け口」状口縁。	○	〃	胎土：1 mm 前後の 砂粒を含む 色調：明赤褐色 焼成：やや硬	〃
31	〃	〃 19.2	○ あまり繋らない頸部より、口縁部は強く屈曲して開き端部を丸くおさめるいわゆる 「受け口」状口縁。	○	〃	胎土：1 mm 前後の 砂粒を極少量含 む 色調：乳褐色 焼成：軟	〃
32	〃	〃 15.3	○ あまり繋らない頸部より、口縁部は強く屈曲して立ち上がり端部を強く面取りして 外側に引き出るいわゆる「受け口」状口縁。	○ 体部外面はハケ調整。 ○ 頸部外面および口縁部は焼成ナメ調整。	○	胎土：1 mm 以下の 砂粒を若干含む 色調：明赤褐色	〃

番号	種類・器形	法 量 (cm)	形 態	調 整	地 土・色調・焼成 度	備 考
33	土 脇 烧 底	底部径 5.8	○ 底部は弱い凹み底に作られ、体部は強く外傾して開く。	○ 底部外面は不調整で、内面はハケ調整。 ○ 体部外面は、へラ巻きとと思われるが、器 刺鉗のため不明。	地土： 1mm前後の 砂粒を若干含む 色調：褐灰色 焼成：硬	SX-1 内 (赤褐色 粘質土層)
34	"	底部径 5	○ 底部は中央部が凹み底ぎみに作られ、体 部は内巻きぎみに外傾して開く。	○ 底部外面および体部外面は器表刺鉗のた め不明。 ○ 底部内面は、ハケ調整。	地土： 2mm前後の 砂粒を含む 色調：淡褐色 焼成：やや軟	"
35	"	底部径 5.4	○ 底部は弱い凹み伏に作られ、体部は強く 外傾して開く。	○ 底部外面はナデ調整で、内面はハケ調整。 ○ 体部外面は、ハケ調整後、尚ナデ調整。	地土： 1mm前後の 砂粒を若干含む 色調：乳褐色 焼成：硬	"
36	"	底部径 4.0	○ 底部は弱い凹み底に作られ、体部は外傾 して開く。	○ 底部外面および体部内外面ともに器表 刺鉗のため不明。	地土： 1mm以下 砂粒を極少量含 む 色調：淡赤褐色 焼成：やや軟	"
37	"	底部径 4.8	○ "	○	地土： 1mm以下 砂粒を極少量含 む 色調：淡褐色 焼成：やや軟	"
38	"	底部径 5.0	○ 底部は凹み底に作られ、体部は外傾して 開く。	○ 底部外面は指面による調整であるが、内 面は器表刺鉗のため不明。	地土： 1mm前後の 砂粒を含む 色調：明赤褐色 焼成：やや硬	"

番号	種類・器形	法 量 (cm)	形 態	調 整	胎土・色調・焼成	備 考
39	土瓶 器 器台	口径 17.3	○ 体部は内彫ぎみに強く外彫して開き、口 縁部は上方と下方に引き出しき下口縁で端 部に弱い凹線を入れる。	○ 器表剥脱のため不明。	胎土：1mm以下の 砂粒を極少配合 し 色調：褐色 焼成：硬	胎土：1mm以下の 砂粒をSx-1内 (未褐色 粘質土質)
40	"	21.4	○ 体部は内彫ぎみに強く外彫して開き、口 縁部は外面を取りして下方に弱く引き出 しておさめめる。	○ 器表剥脱のため不明。	胎土：1mm以下の 砂粒を若干含む 色調：明赤褐色 焼成：やや軟	"
41	土瓶 器 瓶形	脚部径 10.8	○ 脚部は「ラッパ」状に開き、端部を丸く 横ナテ調整。	○ 脚部内面にはしほり痕を残すが、外面 横ナテ調整。	胎土：1mm以下の 砂粒を若干含む 色調：明赤褐色 焼成：やや軟	"
42	"		○ 脚部は「ラッパ」状に開き、3穴を有す ると思われる。	○	胎土：稍硬 色調：白褐色 焼成：硬	"
43	"	脚部径 11.2	○ 脚部は「ロウト」状に開き、端部を強い ナテで引き出しがみに作る。	○ 脚部は、内外面横ナテ調整。	胎土：1mm以下の 砂粒を含む 色調：明赤褐色 焼成：やや軟	"
44	"		○ 脚部は「ラッパ」状に開き、3穴を有す ると思われる。	○ 脚部はP外外面および外部内外面ともに脚 表剥脱のため不明。	胎土：2mm以下の 砂粒を含む 色調：白褐色 焼成：軟	"
45	"		○	○ 脚部は内面にしほり痕を残し、内外面横 ナテ調整。	胎土：1mm以下の 砂粒を若干含む 色調：褐色	"

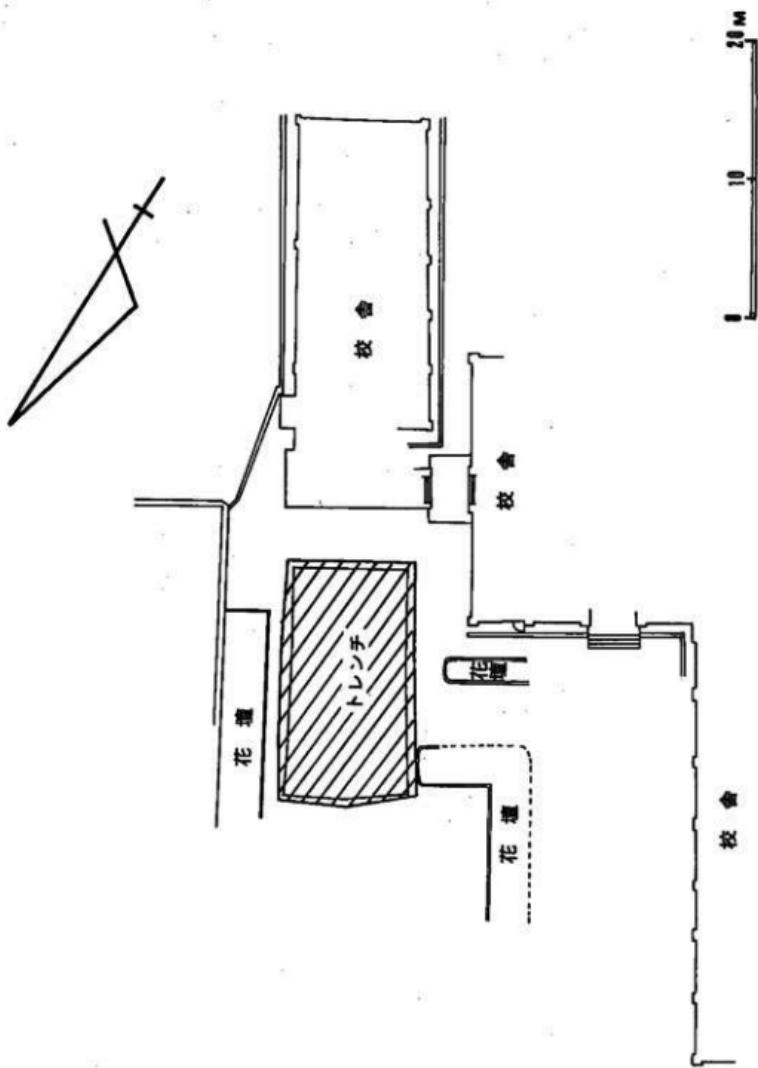
番号	種類・器形	法 量 (cm)	形 態	細 胞	調 整	胎 土	色 調	焼 成	備 考
46	土師器 脚部		○ 脚部は「ラッバ」状に開く。					焼成: 硬	
47	"	脚台径 7.0	○ 脚台は「ロウト」状に開くしつかりした 作りで、端部を面取りしておさめる。	○ 脚部は外面輪ナデ調整であるが、輪 部外面を部分的に指でおさえており不調整。		胎土: 青良 色調: 淡明褐色 焼成: やや軟	SX-1 内 (未褐色 粘質土層)	"	
48	"	脚台径 6.4	"	○ 脚部は外面輪ナデ調整と思われる。		胎土: 1 mm 以下の 砂粒を若干含む 色調: 淡灰褐色 焼成: 硬	"	"	
49	土師器 底部	底部径 3.6	○ 底部は平底に作られ、体部は内側ぎみに 立ち上がる。 ○ 底部は両側から繩状の工具で穴を穿つ。	○ 調整法不明。		胎土: 1 mm 以下の 砂粒を若干含む 色調: 淡乳白色 焼成: やや硬	"	"	
50	土師器 土壠	最大径 2.3	○ 不整形の球形をなし、径 5 mm の穴を穿つ。	○ 手捏ねで作る。		胎土: 青良 色調: 淡白褐色 焼成: 硬	"	"	
51	土師器	12.7	○ 上く折った頭部から口縁部は強く外傾し て開き、端部は面取りして下方に斜く引き 出しておさめる。	○ 口縁部は堅淡削脱のため調整法不明。		胎土: 2 mm 以下の 砂粒を若干含む 色調: 淡灰褐色 焼成: 軟	SX-1 内 (青灰色 粘質土層)	"	
52	"	14.5	"	"	○	胎土: 2 mm 以下の 砂粒を若干含む	"	"	

番号	種類・器形	法量(cm)	形	體	調	整	地土・色調・焼成	備考
53	縄文土器 鉢		○ 口縁部外面下に断面三角形の凸帯を張り付ける。 ○ 凸帯は割まないが、指顎により上下からつまみ刻み風に作る。	○ 体部内外面は、茎状の工具によりナデて調整しておらず、外面は、上下方向で内面は横方向である。			色調：明赤褐色 焼成：やや軟	
54	"		○ 断面三角形の凸帯を張り付けるが、刻はない。 ○ 上下逆の可能性がある。	○ 体部外面は、茎状の工具によりナデして調整しており、内面はナデ調整。		地土：2mm以下の砂粒を若干含む 色調：淡灰黄色 焼成：硬	SX-1内 (青灰色 シルト層)	"
55	"		○ 口縁部および腹部二段に刻目凸帯文を張り付けるものと思われる。 ○ 口縁部はやや外縁きみに立ち上がる。	○ 体部外面は茎状の工具によるタチ方向のナデ調整で、頭部外面は横方向のナデ調整。 ○ 頭部内部および体部内部は、ヘラ状工具による横方向のナデ調整。		地土：1mm前後の砂粒を含む 色調：茶褐色 焼成：硬	SX-1内 (青灰色 シルト層)	
56	"		○ 体部は内彫して立ち上がり、頸部に腹を作る。 ○ 口縁部は外彫して開き、舟手の作りである。	○ 体部外面は頭部下が横方向で、その下がタチ方向の茎状工具によるナデ調整。 ○ 頭部外面および体部内部は、ヘラ状の工具による横き調整で平滑に仕上げてある。		地土：1mm以下の砂粒を含む 色調：淡茶灰色 焼成：硬	SX-1内 (青灰色 シルト層)	
57	縄文土器 浅鉢		○ 口縁部は内彫して立ち上がり、口縁端部を外側に引き出しおさめる。 ○ 口縁端部下に3条の凹線を入れる。	○ 内外面、横ナデ調整。		地土：1mm以下の砂粒を含む 色調：淡灰白色 焼成：硬	SX-1内 (青灰色 粘質土層)	包含層
58	叩き石		○ 最大径9.2cmの円形の河原石で、両面に凹み底を残す。 ○ 花崗岩系の石と思われる。					

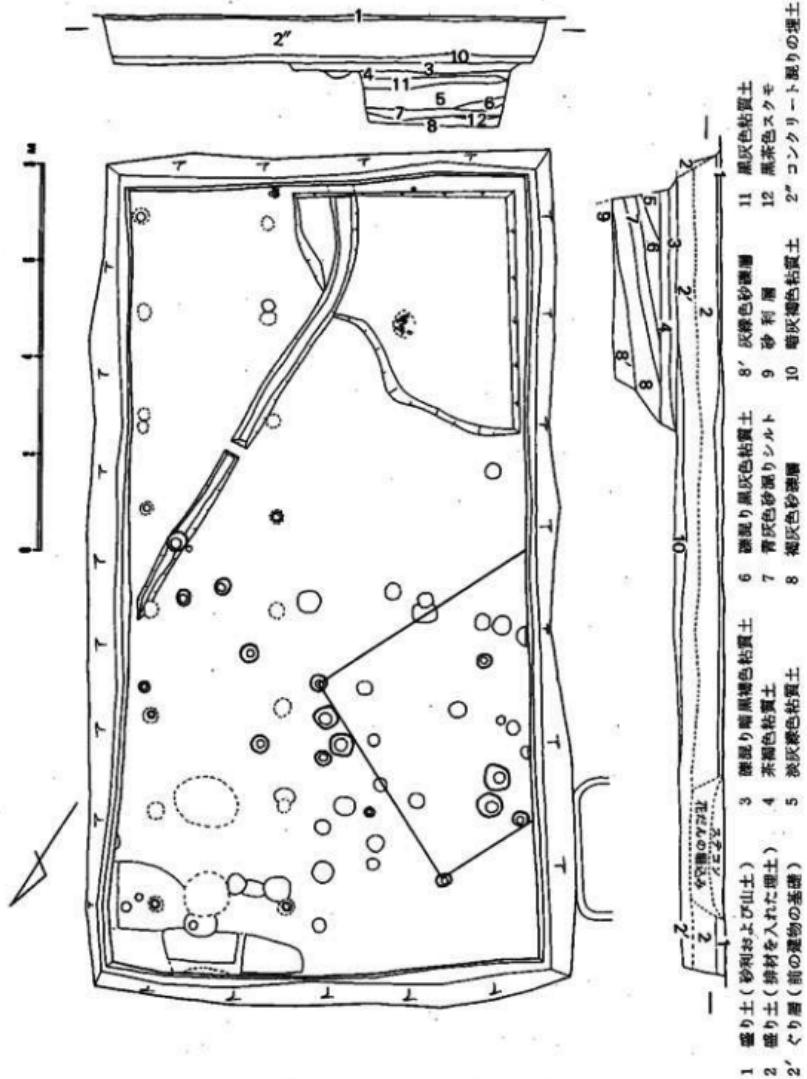


1	今回調査地(福富遺跡)	11	天王山遺跡	21	竹ヶ鼻廃寺
2	品井戸遺跡	12	天王山南遺跡	22	丁田遺跡
3	七講田遺跡	13	雨臺山遺跡	23	遊行塚遺跡
4	中久保遺跡	14	雨臺山東遺跡	24	藤丸遺跡
5	下野々上遺跡	15	下沢遺跡	25	上沢尻遺跡
6	一ツヤ遺跡	16	東沼波遺跡	26	門田遺跡
7	木戸口遺跡	17	道ノ下遺跡	27	蓬台寺遺跡
8	山之脇遺跡	18	須川遺跡	28	石原遺跡
9	天王山北遺跡	19	西今遺跡	29	横地遺跡
10	山畑遺跡	20	椿塚遺跡	30	堀南遺跡

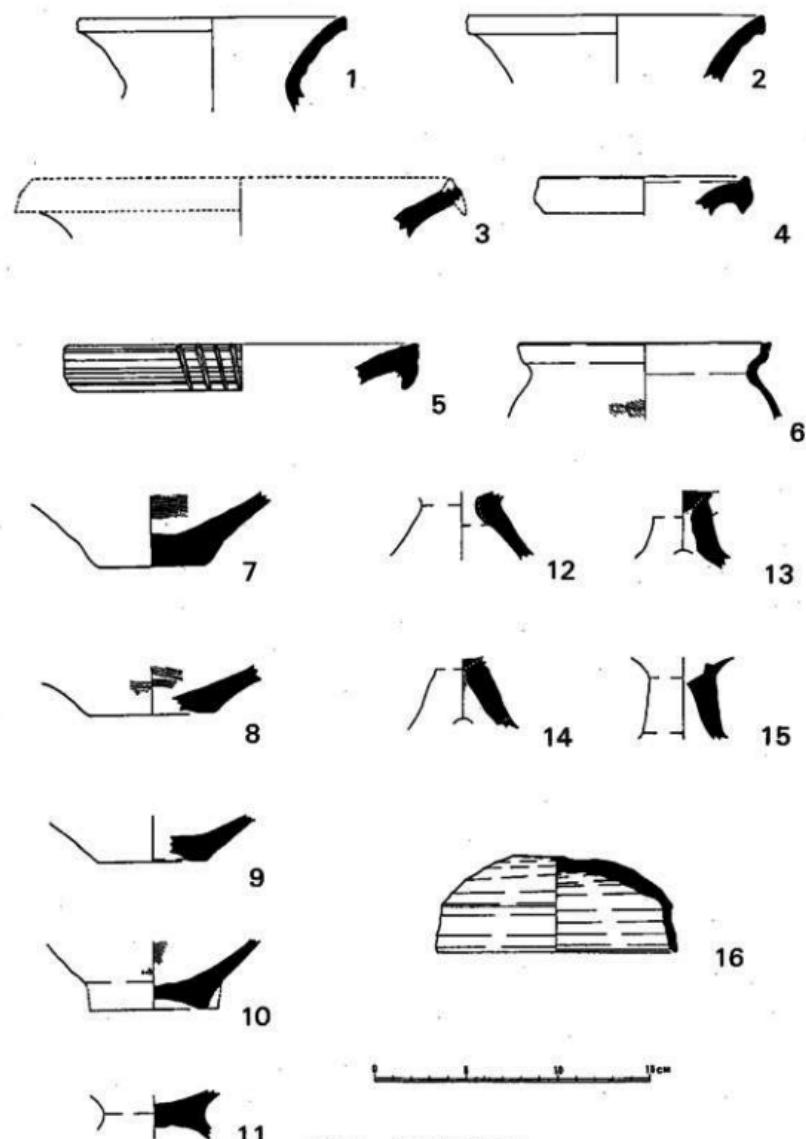
図版1 調査遺跡位置図



図版2 トレンチ位置図



図版3 造構図



図版4 出土遺物実測図



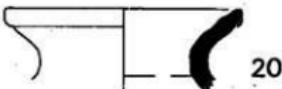
17



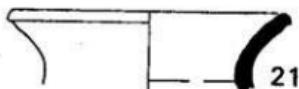
18



19



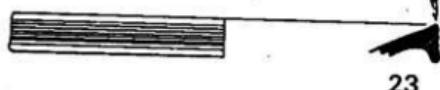
20



21



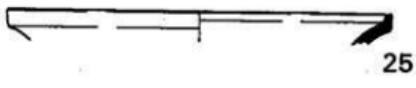
22



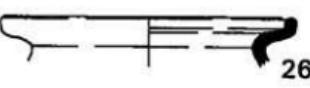
23



24



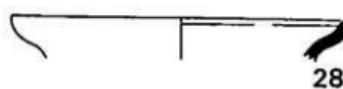
25



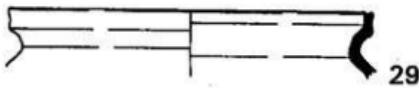
26



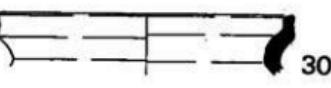
27



28



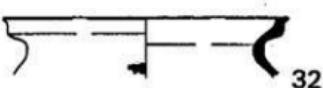
29



30



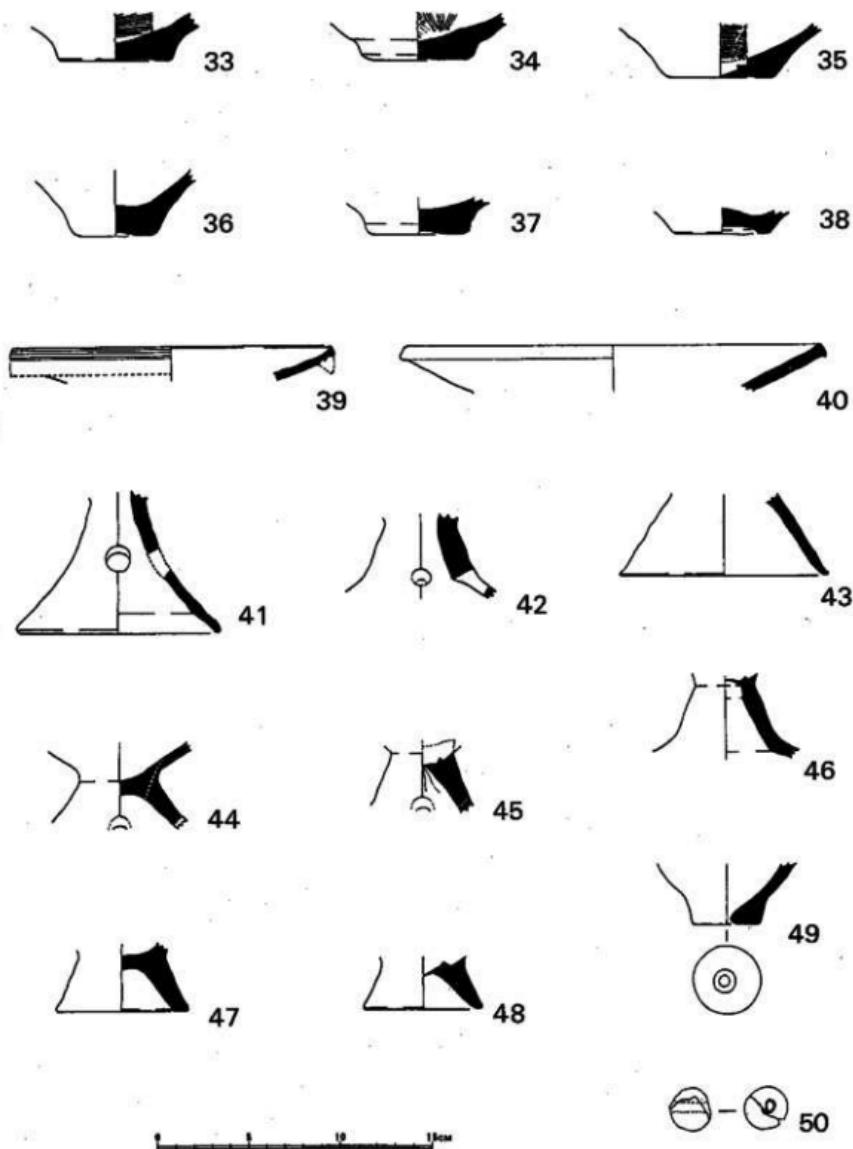
31



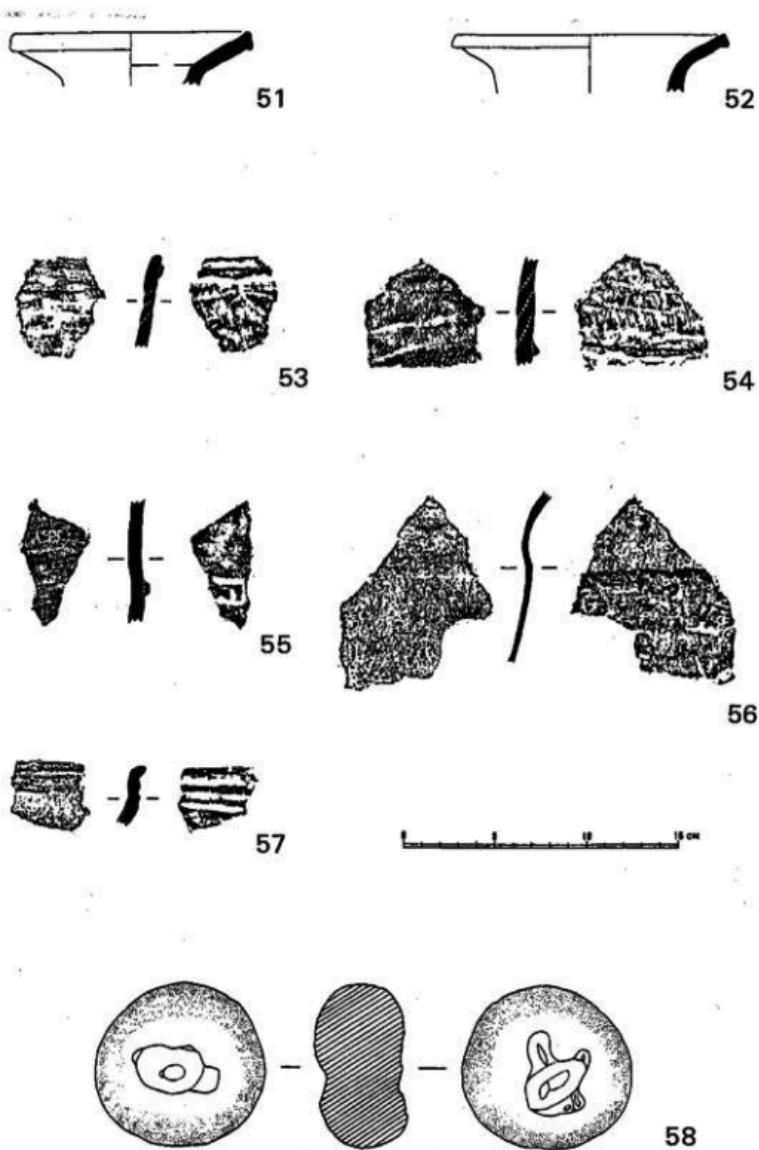
32



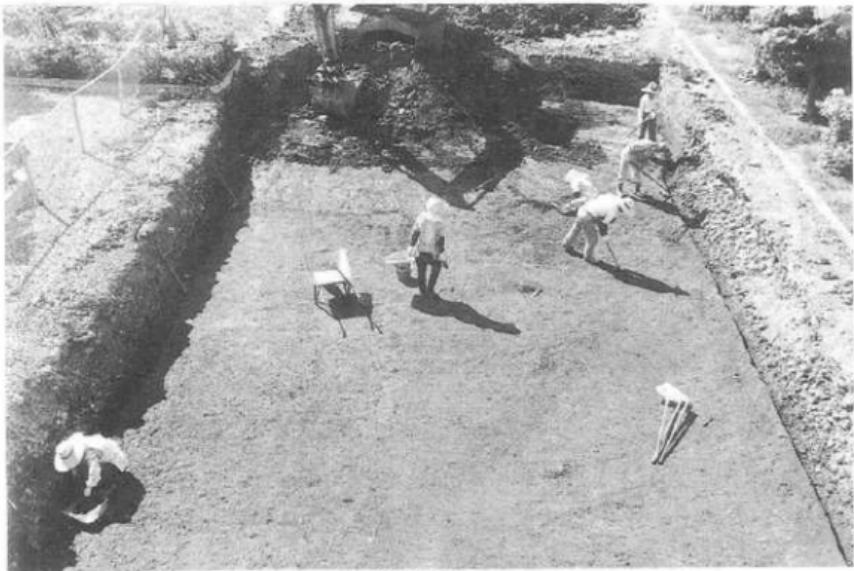
図版5 出土遺物実測図



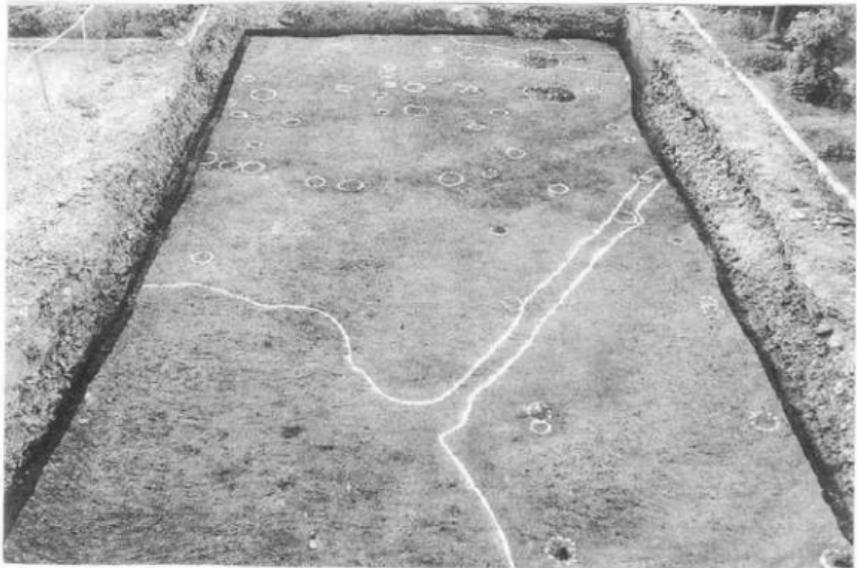
図版 6. 出土遺物実測図



図版7 出土遺物実測図



調査風景

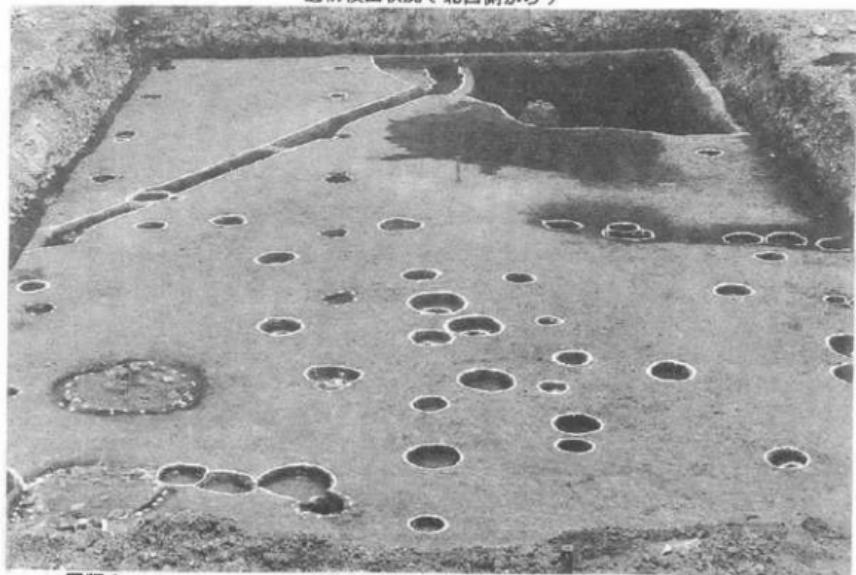


遺構検出状況（南東側から）

図版 8

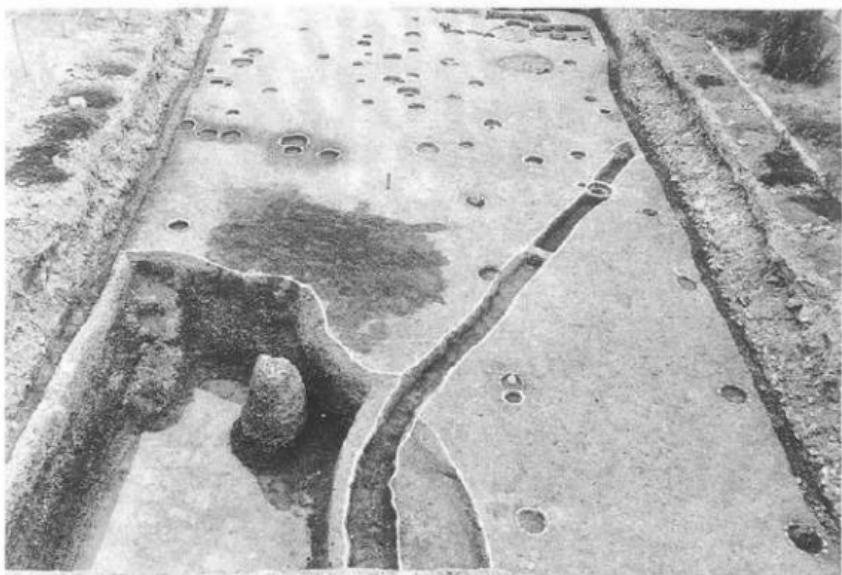


遺構検出状況（北西側から）



図版 9

遺構掘り込み状況（北西側から）

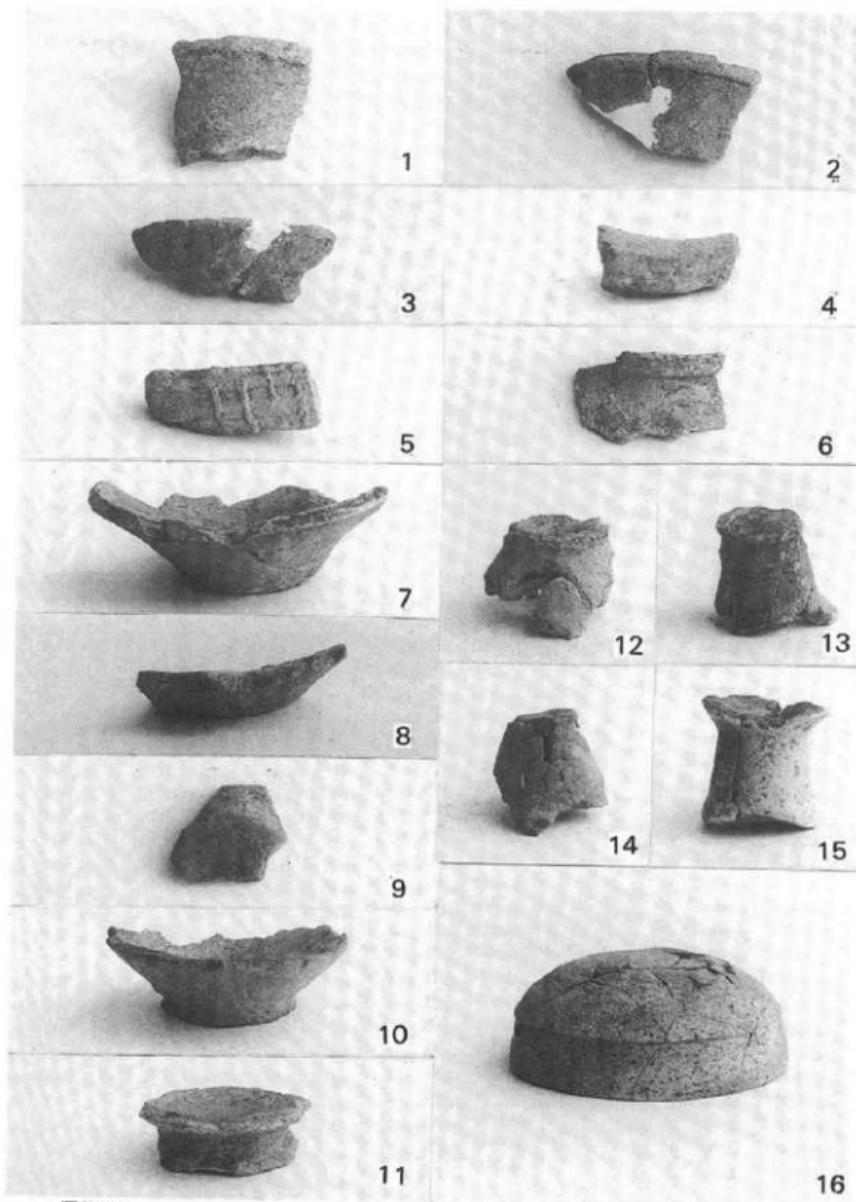


遺構掘り込み状況(南東側から)

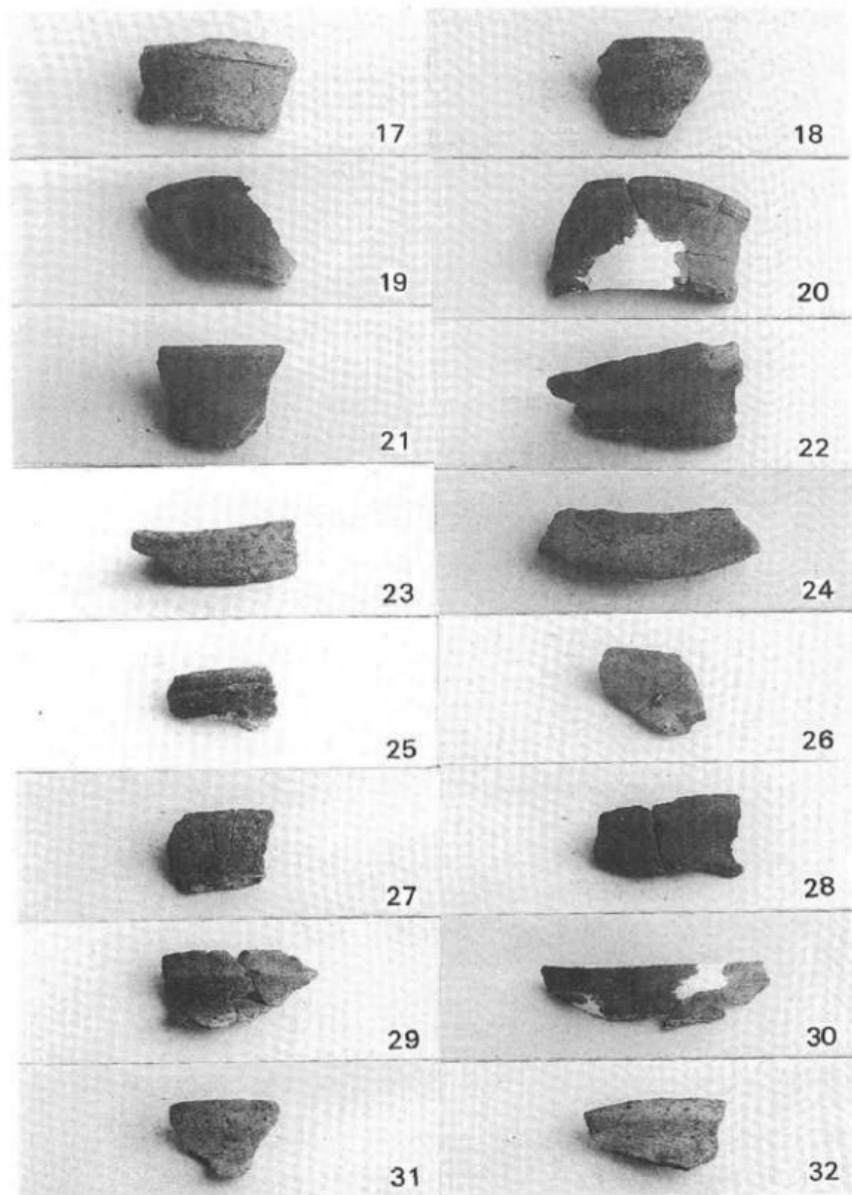


図版10

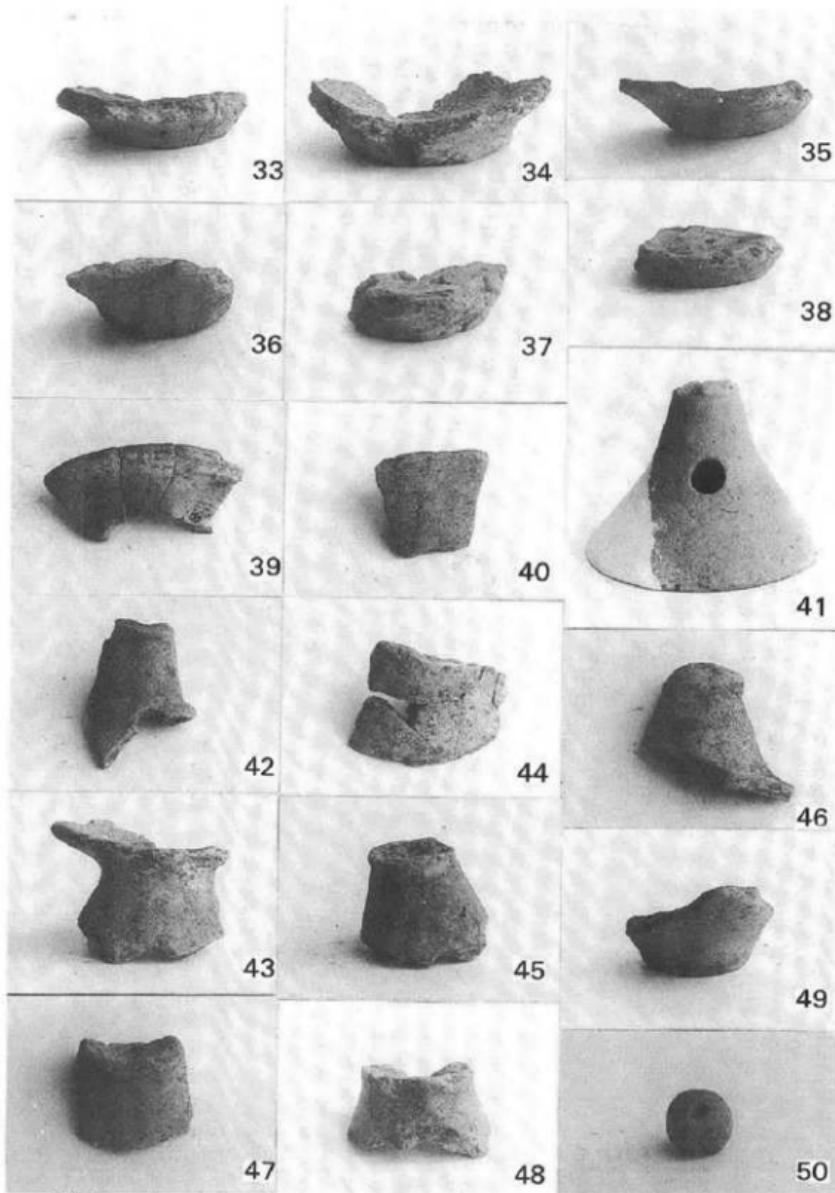
SX-1遺物出土状況



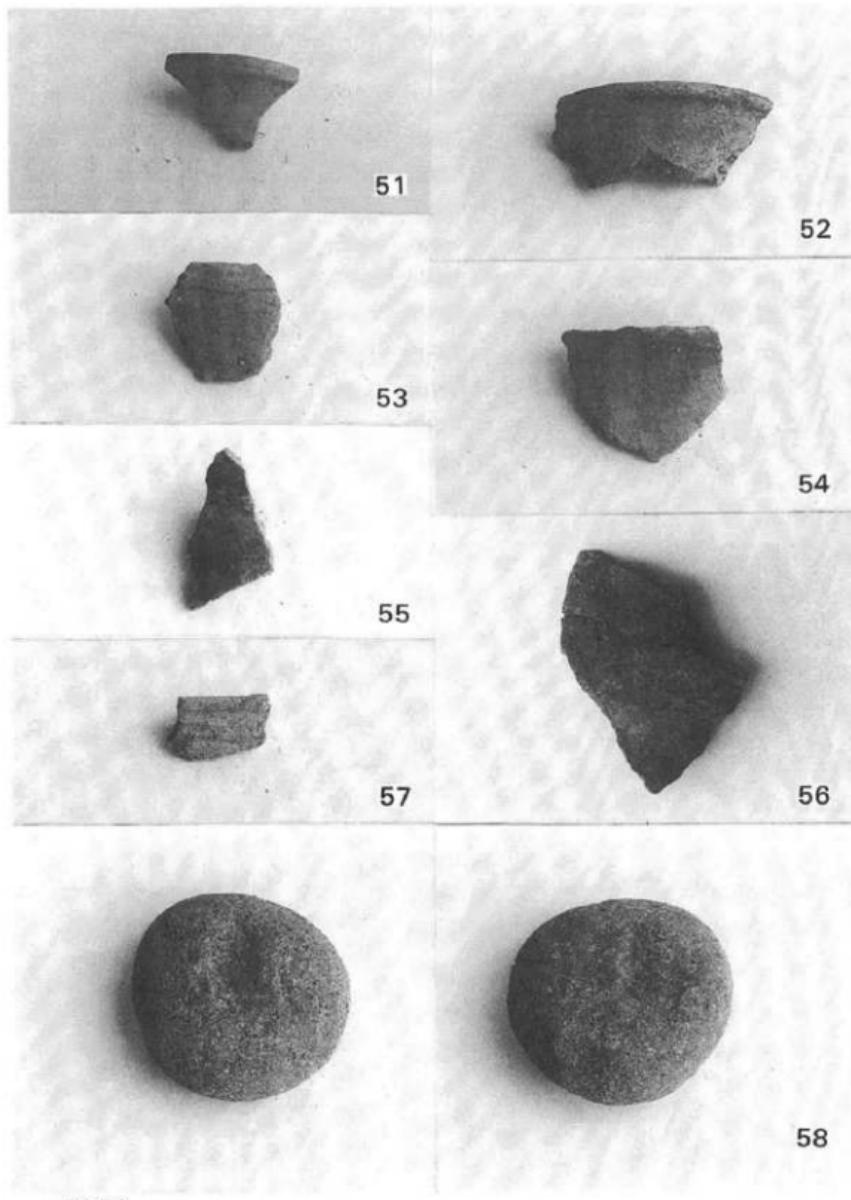
図版11



圖版12



圖版13



图版14

彦根市埋蔵文化財調査報告第20集
福満遺跡第7次調査
—市立城南小学校増築工事に伴う—

平成3年3月
編集 彦根市教育委員会
発行 彦根市教育委員会
印刷 ニッくシ出版印刷

